

初めてでも失敗しない パッケージ発注の進め方 とチェックリスト

はじめに～パッケージは「無言のトップ営業マン」です～

この度は、本資料をダウンロードいただき誠にありがとうございます。
ございます。

新商品の立ち上げや、初めてのパッケージ製作。
「何から始めればいいかわからない」
「見積を取ったけど、これで合っているのか不安」
パッケージ制作では、進め方を間違えるだけでコスト増ややり直しにつながる可能性があります。

実際に多いのが、

- ・デザインから始めてしまう
- ・想定よりコストが高くなる
- ・仕上がりイメージと違う

本資料では、こうした失敗を防ぐために発注前に押さえるべきポイントをまとめています。

貴社の大切な商品を届けるパッケージ作りが、安心してスムーズなものになれば幸いです。

1. 失敗しない！パッケージ制作「基本の6ステップ」

1-1. 企画から納品まで、パッケージができるまでの全体の流れ

1-2. デザインの前に「展開図（カタチ）」を決めるべき3つの理由

2. 【要注意】初心者が陥りがちな失敗と解決策

3. 失敗しないための「見積依頼チェックリスト」

4. おわりに

1.失敗しない！パッケージ制作「基本の6ステップ」

1-1. 企画から納品まで、パッケージができるまでの全体の流れ

■パッケージ制作は、正しい順番で進めることが成功の条件です。
正しい順番を把握しないで進めてしまうことで起こる失敗には次のようなものがあります。

①デザインから始めてしまう

→形状が決まっていない状態でデザインを進めてしまい、
後から作り直しになるケースがあります。

②色が思っていたものと違う

→画面で見た色と実際の印刷では差が出るため、
想定と違う仕上がりになることがあります。

③コストが合わない

→設計次第で単価が大きく変わるため、予算オーバーになる
こともあります。これらはすべて
「進める順番」と「事前整理」
で防げる失敗です。

多くの場合、以下が原因です。

- ・形状（展開図）を決める前に進めている
- ・必要な情報が整理されていない
- ・印刷や設計の基本を知らない

つまり「順番」と「準備」が不足している状態です。

【3つ以上当てはまる方は要注意】

- 中に入れる商品のサイズが曖昧
- パッケージの用途が決まっていない
- 形状（箱のカタチ）を決めていない
- 紙質や仕上がりイメージが曖昧
- ロット数が決まっていない
- 納期が未確定

→この状態で進めるとトラブルにつながる可能性があります。
とはいえ、すべてを事前に決める必要はありません。

初期段階からご相談いただくことで、進め方や優先順位も含めてご提案可能です。

次のページでは、パッケージ作りにおいて把握しておくべき進め方を紹介します。

1.失敗しない！パッケージ制作「基本の6ステップ」

■パッケージ制作は、正しい順番で進めることが成功の条件です。
まずは、全体の流れを把握しましょう

【基本の6ステップ】

①企画・ヒアリング
(中身のサイズ、重さ、ターゲット、スケジュール、予算の確認)

②形状設計（白ダミー（無地サンプル）作成） & お見積り

③デザイン作成（展開図に合わせてデザインを配置）

④色見本の作成

⑤製造

⑥納品

特に重要なのが②形状設計です。
この工程次第で、コストや品質、作業効率まで大きく変わります。

→最初にここをしっかりと決めることが成功のポイントです

1-2. デザインの前に「展開図（カタチ）」を決めるべき3つの理由

■「デザイン」を描く前に、「箱のカタチ（展開図）」を決める！

「こんなデザインの箱にしたい！」と、先にデザイナーへ依頼していませんか？ 実はこれ、大きなコストロスや失敗の原因になります。

【先に形状（展開図）を決めるべき3つの理由】

① ミリ単位の調整でコストが下がるケースがある

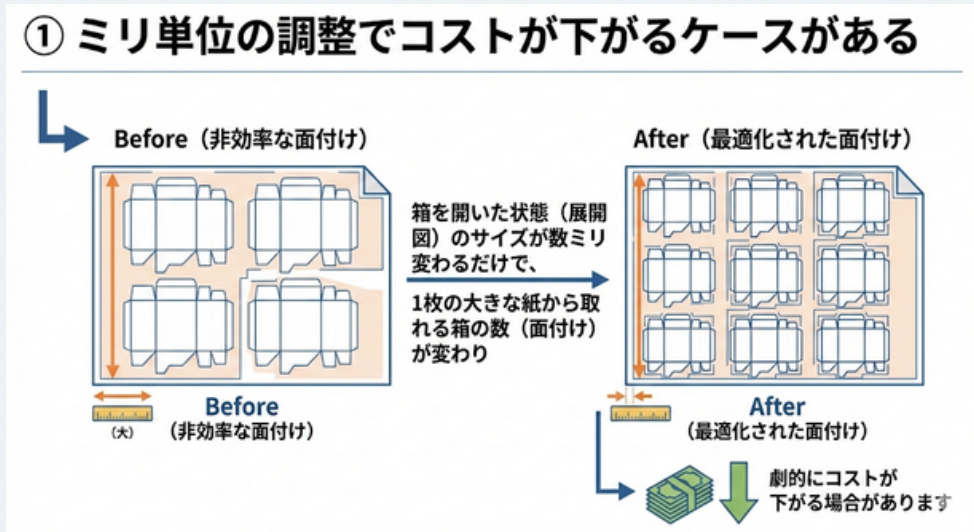
→箱を開いた状態（展開図）のサイズが数ミリ変わるだけで、1枚の大きな紙から取れる箱の数（面付け）が変わり、劇的にコストが下がる場合があります。例えば展開サイズを5mm縮めただけで1枚の用紙から取れる数が4面→9面に増え、単価が約12%下がった事例もあります

② 紙の強度と中身の重さを合わせるため

→デザインが完成した後に「この紙では強度が足りず底が抜ける」と判明すると、デザインの比率から作り直しになってしまうこともあり、コストだけでなく、発売日に間に合わないという最悪のスケジュール遅延を招いてしまう可能性があります

③ 正確なお見積りが出せる

→形状が決まらなければ、使う紙のサイズが決まらず、正確な印刷代が計算できません。また、初回に必ず必要となる専用の『抜き型代』も、形状が決まらないと計算できません



★アドバイス

弊社では、お客様から「中身の商品」と「大体のイメージ」をヒアリングした段階で、自社で最適な展開図（形状）を設計し、無地のサンプル（白ダミー）をご提案しています。デザインに着手するのは、カタチと見積りに納得していただいてからで遅くありません。

3.失敗しないための「見積依頼チェックリスト」

■何から伝えればいいのか迷ったら、ここをチェック！

「まだ細かいことは決まっていなくても、大まかな予算を知りたい」、「この部分がよくわからないから相談してみたい」という洗い出しにも活用してください

【チェックリスト】

- 1. 中に入れる商品：(例：化粧水ボトル、サイズ 幅○mm×奥行○mm×高さ○mm重さ ○g)
- 2. パッケージの用途：(例：店頭のパネルに並べる、EC通販の配送箱として使う)
- 3. 材質・紙のイメージ：(例：ツヤを出したい、ナチュラルにしたい)
- 4. 印刷色数：(例：フルカラー、ロゴのみ1~2色、無地)
- 5. 表面加工・加飾：(例：箔押しで高級感を出したい)
- 6. 想定ロット：(例：初回 ○○個、以降は月間 ○○個程度)
- 7. 納品形態：(例：平らな状態で納品、箱型に組み立てて納品)
- 8. 納品先、希望納期：(例：○月○日までに納品希望)
- 9. ご予算感：(例：1箱○○円程度、トータル○○万円以内)

このチェックリスト、空欄のままでも大丈夫です。埋められた項目だけ持って、まずはWEBフォームからご相談ください。回答は2営業日以内にお返しします。

初回だけかかる「初期費用」について
見積書を受け取って「思ったより高い」と感じる方の多くは、この3つに驚いています。2回目以降は「箱の単価のみ」です。初回コストを理由に諦める前に、一度ご相談ください。

費用名	内容	2回目以降
抜型代 (木型代)	展開図の形に打ち抜く専用型	不要
各種版代	箔押し・シルク印刷などの版	不要
製版代	データ処理作業費	完全データ*なら初回から不要

2.【要注意】初心者が陥りがちな失敗と解決策

■本項では、パッケージ製造においてつまづきがちな点をピックアップして紹介します。事前に注意点を把握しておくことでスムーズな製造、スケジュール遵守が可能になります

失敗① パソコンの画面と違う！？色がくすんで見える「RGB」の罫

■「届いた箱を見たら、パソコンで作ったデザインより色が暗くてくすんでいる…」これは、初めてパッケージを作る方が最も陥りやすい失敗です。

原因は「カラーモードの違い」にあります。パソコンやスマホの画面は「RGB（光の三原色）」で色を表現しますが、実際の印刷機は「CMYK（4色のインク）」で色を表現します。RGBの方が表現できる色の幅が広いいため、そのまま印刷すると、くすんだ色に変換されてしまう傾向があります。

★解決策

- ①モニターで見る色と、実際の印刷では原則として発色が異なります。ブランドカラーなどご希望の色がある場合、「特色（とくしょく）」という専用インクを指定するか、事前の色校正で、量産時の色のブレを許容範囲内に収める基準を作ることをお勧めします。
- ②デザインデータを作成する際は、必ず最初からソフトの設定を「CMYKモード」にして作成しましょう。弊社では、データ受け取り時に必ずカラーモードの確認とアドバイスをを行っています。本資料では付録としてデータ作成担当の方への入稿データチェックリストを用意していますので是非ご活用ください。

失敗② 化粧箱と配送箱の色がバラバラ！「複数アイテムの別々発注」の落とし穴

■本文商品の「化粧箱」はA社に、梱包用の「段ボール（配送箱）」や「シール」「店頭什器」はB社に……。このように複数のアイテムを別々の会社に発注すると、「同じブランドカラーを指定したのに、箱とシールの色が全然違う！」というトラブルがよく起こります。印刷機や使う紙が違えば、PANTONE指定でも完全一致は難しいのが実情です。色が揃っていないとブランドのイメージダウンに繋がる上、お客様自身が複数社と納期調整をする手間も膨大になります。

★解決策

関連アイテムは同じ印刷会社に一括（ワンストップ）で発注するのが鉄則です。弊社では、パッケージから同梱物、什器まで一括管理できるため、色味を統一させつつ、担当者様の発注の手間を劇的に削減します。

失敗③ 現場からクレーム！？「組み立てにくさ」を見落としした設計

■デザインや見た目のユニークさばかりを優先して複雑な形状にしてしまうと、後から思わぬ落とし穴が待っています。

それが「現場での組み立て作業の負担」です。箱に商品を詰める作業員や、店舗で什器を組み立てるスタッフから「時間がかかりすぎる」「ツメが折れやすい」とクレームになり、結果的に人件費（作業コスト）が跳ね上がってしまうケースです。

★解決策

パッケージは「見た目」と「作業効率」のバランスが命です。弊社では、お客様のご要望を活かしつつ、「ワンタッチで底が組める構造」や「店頭で誰でも迷わず組み立てられる設計」をご提案、見えない人件費のカットに貢献します。

失敗④ 刷り直しの大惨事！？「リサイクルマーク」や「表示義務」の確認漏れ

■デザインが完璧に仕上がり、いざ印刷！……という段階で発覚しやすいのが、法律で定められた「マーク」や「成分表示」の抜け漏れです。

特に以下の3つは初心者が忘れがちな要注意ポイントです。

資源有効利用促進法：紙やプラの「識別マーク（リサイクルマーク）」の記載

食品表示法・薬機法など：業界特有の成分表示や、文字サイズの規定

景品表示法：「絶対に痩せる」などの過剰な表現（NGワード）

これらの記載や確認が漏れていると、最悪の場合「販売できない」「全量刷り直し」という大損害に繋がります。

★解決策

表示内容の最終責任はお客様（メーカー様）になりますが、弊社では入稿データをチェックする際、「紙マークが入っていませんが大丈夫ですか？」といったプロ目線での声かけ（ダブルチェック）を行い、未然にトラブルを防ぐよう伴走しています。

4.おわりに

■あなたの商品に合った箱を、一緒につくります。

「形がまだ決まっていない」「予算感だけ知りたい」——それで十分です。

ゴードーでは、最初のご相談から専任担当者が対応します。

「こんな箱を作りたいけど、いくらかかる?」「他社で作っている箱のコストを下げられないか?」など、どんな小さな疑問でも大歓迎です。まずはお気軽にご相談ください。

【ゴードーが選ばれる3つの理由】

- ①ワンストップ対応 設計～製造～納品はもちろん副資材も含めた手配も可
- ②専任伴走サポート 専門用語がわからなくても安心
- ③逆提案が得意 コストの無駄を一緒に見つけます

よくあるご質問

Q. 見積りだけでも相談できますか?

A. もちろんです。まずはお気軽にWEBフォームからご連絡ください。

Q. 発注から納品まで、どのくらいかかりますか?

A. 初回は形状設計から約4-6週間が目安です。

お急ぎの場合はご相談ください

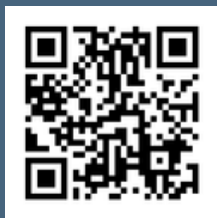
Q. 最低ロットはいくつからですか?

A. コストを考えると1000個～が目安となりますが

それ以下のLOTについても豊富に実績ございますのでお気軽にお問い合わせください

▼無料相談はWEBフォームから（2営業日以内にご返信）

無料で相談する→
(WEBフォームから)



お急ぎの方はお電話でも：080-4375-2953

株式会社ゴードー

〒169-0075東京都新宿区高田馬場2-14-5キクチビル1F